資料５

北広島市の現況及び各種調査結果の概要

＊はじめに・・・

北広島市では　人口減少・高齢化、バス利用者の減少やバス事業の従業員の減少など地域公共交通を取り巻く地域概況が変化する中、市民の皆様の生活環境の向上に寄与する公共交通網を構築するため、交通事業者や市民、行政等の関係者による会議体（北広島市地域公共交通活性化協議会・専門部会）を立ち上げ、北広島市における持続可能な公共交通体系のあり方について、検討を進めています。

本資料はこれまで専門部会でご議論してきた各種調査・分析結果の概要を掲載しました。

＊北広島市の現状

北広島市は　北広島駅を中心とした東部地区・北広島団地地区をはじめ、大曲地区、西部地区、西の里地区の5つの地区から形成されています。

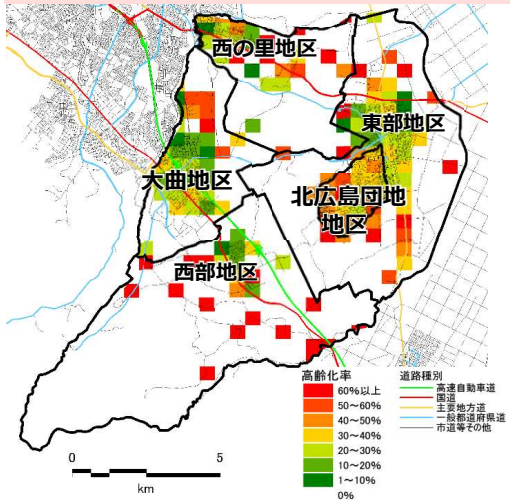
北広島市の人口は　平成19年の61,199人をピークに減少傾向に転じています。

特に経済の中心となる生産年齢人口（15～64歳）の減少が著しく、平成27年の国勢調査では約3割の方が高齢者となる時代に突入しています。

また、市の中心であるＪＲ北広島駅の西側に位置する戸建住宅を中心とした北海道で三番目の大規模住宅団地である北広島団地では、高齢化が最も進行しており、平成27年で41.5%となっています。

これら少子高齢化の傾向は、今後も継続することが予想され、高齢者をはじめ、市民の皆様が安全にかつ安心して移動できる環境整備が必要な状況です。

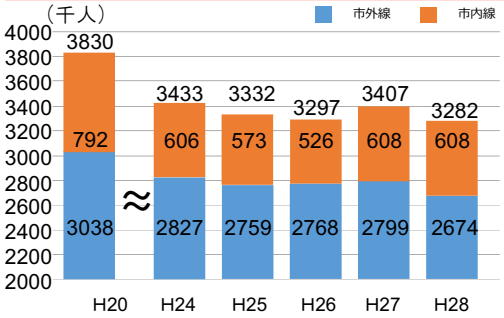
高齢化率の分布図



市内のバス交通は　バス事業者2社により、18路線776便/日が運行しており、市内居住地の約7割をカバーしており、一定充足は図られていますが、大曲地区をはじめ西部地区、西の里地区においては、バス路線から離れ、バスを利用することが困難な地域が存在しています。

利用者数は平成20年の383万人をピークに、人口減少等の影響により全体傾向では減少傾向となっていますが、北広島団地線においては、平成27年以降、横ばいで推移しています。

市内を運行する路線バスの利用者数の推移



＊北広島市の公共交通に関する住民アンケート調査の実施

調査の目的　市内における利便性が高く、効率的な公共交通網の構築に向け、市民の交通行動や公共交通に対するニーズを把握するため、平成29年8月に北広島市に居住する6,000世帯（無作為抽出）を対象にアンケート調査を実施（2,197世帯から回収（回収率：36.6%））しました。

調査結果の概要

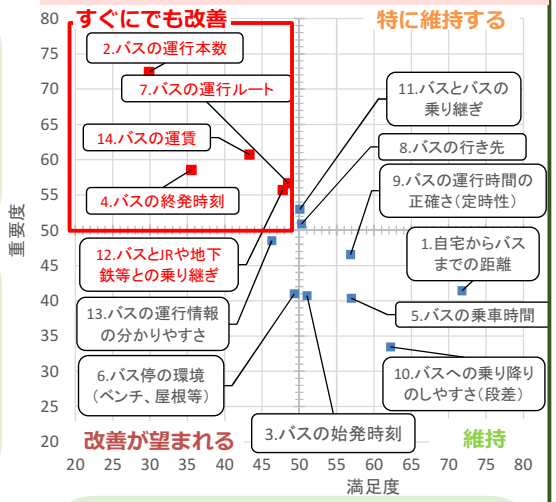
バス路線の満足度は？

「自宅からバス停までの距離」は、高い満足度でしたが、「バスの運行本数」や「バスの終発時刻」については、回答者の半数以上の方が不満と回答しています。

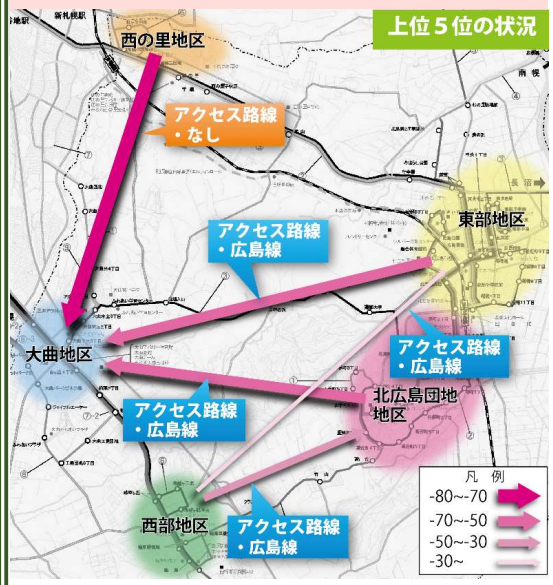
バス路線の改善点は？

「バスの運行本数」をはじめ「バスの運行ルート」、「バスの運賃」、「バスの終発時刻」、「バスとＪＲや地下鉄等との乗り継ぎ」について、早急に検討すべき改善点として挙がっています。

満足度分析から見える改善点



買い物目的における移動実態とニーズの不一致



バス路線で行きたい地区は？

全地区で「北広島団地地区」及び「大曲地区」へのニーズが高くなっており、その際の施設種別は、「商業施設」や「交流施設」の回答割合が多くなっています。

移動に活用したい公共交通としては、「地域をきめ細かく運行するバス路線」の要望も挙がっています。

地区間移動のニーズは？

地区間移動に着目し、移動実態と移動ニーズを比較すると、「東部地区」や「北広島団地地区」、「西の里地区」から「大曲地区」への移動ニーズが実態の行動と大きくかい離しています。

特に「西の里地区」は、路線バスを活用した大曲地区への移動は行うことができず、自家用車に依存せざるを得ない状況です。

自由意見　～ 以下のような意見もありました！ ～

○ 地区によって終発時刻に偏りがあり、利用したい時に利用できない！
○ ＪＲが駅に着いた時にバスが出発してしまう！
○ 住民が自主的にバスを利用しなければならない･･･。

＊北広島市内を運行するバス路線利用実態調査の実施

調査の目的　市内を運行する既存バス路線の現状及び課題を抽出するため、市内を運行する全てのバス路線を対象に、利用目的や利用区間等の利用実態調査を平成29年7月に実施しました。

調査結果の概要

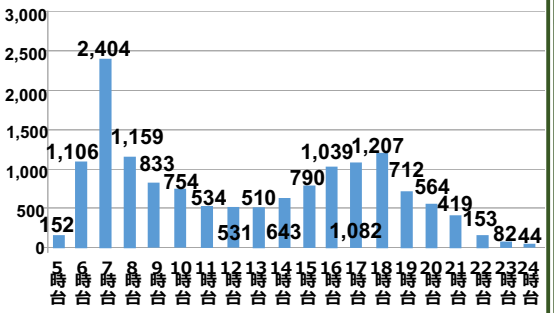
利用者の多い時間帯は？

「７時台」となっており、通勤や通学目的での利用が多くなっています。

また、下校や帰宅時間に差し掛かる「16時台」から「18時台」の利用も多い状況です。

このほか、買い物等の生活交通で利用されていることが見受けられます。

時間帯別路線バス利用者数



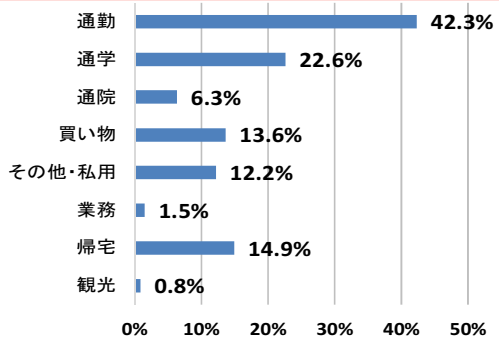
主な乗車区間は？

各地区により特性があり、「東部地区」や「北広島団地地区」においては、ＪＲ北広島駅までの乗車が主な利用となっています。

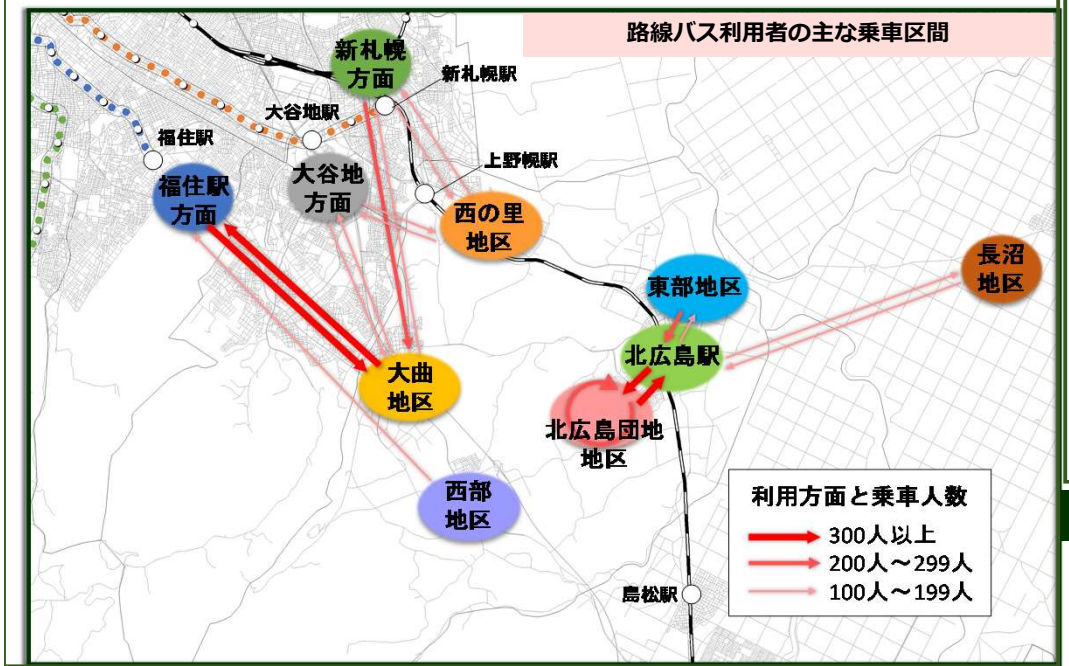
また、札幌市に隣接している「大曲地区」や「西の里地区」においては、札幌方面への利用が主となっています。

一方、「西部地区」においては、福住方面行きの移動は見受けられるものの、帰りの移動は少ない状況です。

路線バスの主な利用目的



路線バス利用者の主な乗車区間



＊ＪＲ駅利用状況に関するアンケート調査の実施

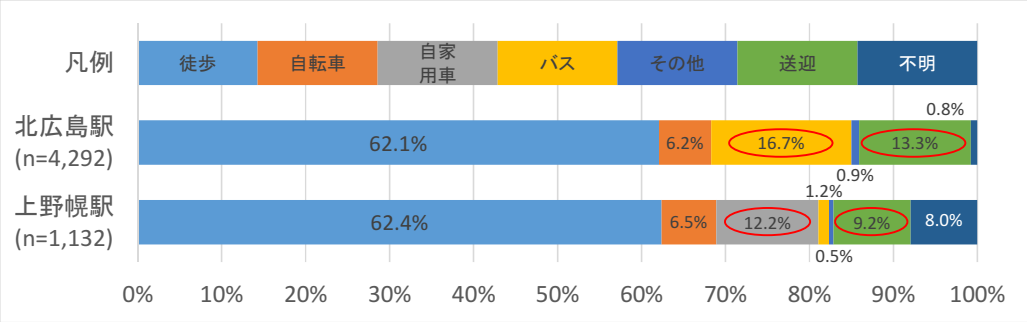
調査の目的　市内バス路線網の再編に向け、市民が多く利用することが想定される「北広島駅」及び「上野幌駅」における利用属性及びアクセス交通、ＪＲ駅へのアクセスに関する満足度など、利用状況に関するアンケート調査を平成29年7月に実施しました。

調査結果の概要

ＪＲ駅へのアクセスは？

両駅共通で、「徒歩」によるアクセスが最も多くなっています。一方で、北広島駅においては、「バス」「送迎」が順に多く、上野幌駅は「マイカー運転」「送迎」が多い状況です。

そのため、送迎やマイカー利用からバスへの転換可能性があると考えられます。

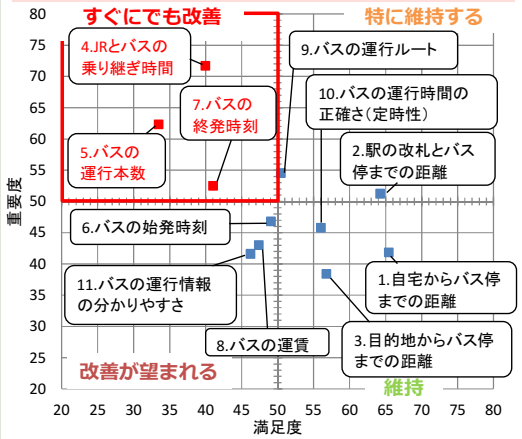


ＪＲ駅へのアクセス交通の改善点は？

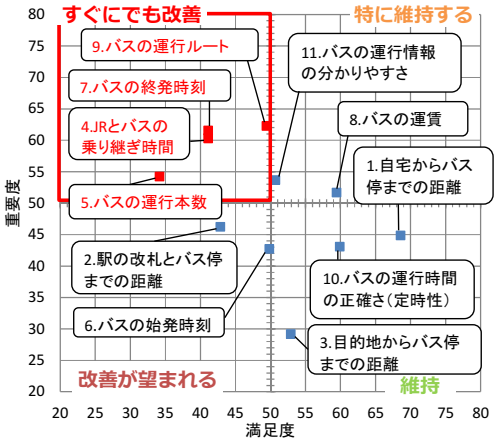
両駅で、すぐにでも改善点すべき要素は「ＪＲとバスの乗継時間」や「バスの運行本数」、「バスの終発時刻」が挙げられています。

上野幌駅には「バスの運行ルート」も改善点として挙げられます。

満足度分析から見える改善点（北広島駅）



満足度分析から見える改善点（上野幌駅）



＊今後の予定

北広島市民に公共交通の検討経過を広く周知することを目的とし、本資料をベースに改良した調査概要についてニューズレターとして回覧することを予定しています。